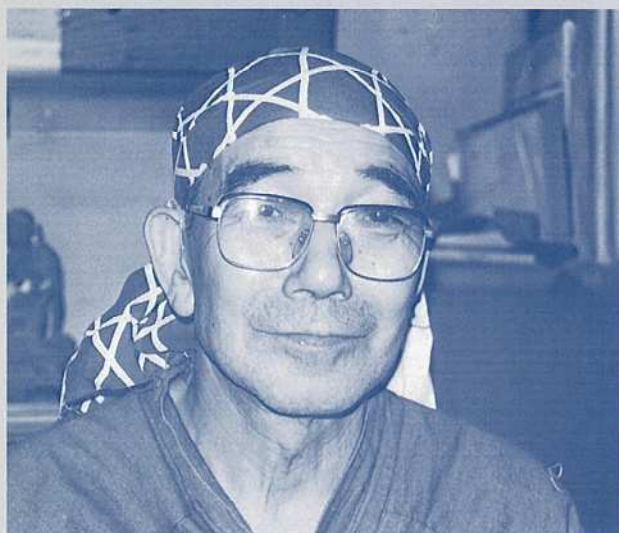


# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



ちゅう ぞう  
鑄 造

ほり かわ つぎ お  
堀 川 次 男

(平成7年度作品)

16ミリ映画・ビデオ  
カラー・17分

## プロフィール

住所、荒川区西日暮里6-43-8

大正12年(1923)、東京都荒川区生れ。

平成6年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

小学校の時から父の鑄物工場を手伝いはじめた堀川さんは、小学校卒業と同時に鑄物師の道に入った。師である父・子之吉さん(号・秀雲)は、大正8年に本郷から日暮里の現在地に移り、日本橋の装飾金具などを鑄造した。

戦前は美術鑄造のみを手がけていた堀川さんだが、戦争が激しくなるにつれ、機械部品しか作れなくなったという。戦後は美術鑄造を中心に職人としての腕を磨き、鑄型づくりから鑄上げまでを一貫して手がける数少ない鑄物師である。

「鑄物師は私の天職」と語る堀川さんは、弟の恭正さん、娘婿の松本隆一さんと共に、本物の鑄物師の技術を守るべく作品づくり、製品づくりに汗を流している。

企 画 東京 都 荒 川 区 教 育 委 員 会 ・ 制 作 株 式 会 社 文 化 工 房  
著 作

## 用具・工具

挽き型、荒縄、埴汁、真土、紙土、ツタチ（粗真土）、ロウ、へら、炉、コウガイ、青銅、ヤスリ、お歯黒、糠味噌（糠・硫黄・塩などを混ぜたもの）、サンドペーパー

## 工程 —— 天龍鶴首花入の場合 ——

### (1) 【鑄型づくり（内型）】

- ・荒縄を心棒に巻き、大まかな形を作る。
- ・粘土を水で溶いた埴汁をまんべんなく塗る。
- ・埴汁が乾かないうちに真土という土を付けて形を整え、一度天日でゆっくりと乾燥させてから、更に、真土を重ね、形が整うまで数回繰り返す。

### (2) 【鑄型づくり（外型）】

- ・型板に合わせて、2～3ミリの厚さになるように内型にロウを塗る。
- ・余分なロウは、心棒を回転させて削り取り、更にロウを塗り重ねる。
- ・完成した鑄型に模様を取り付け、きめの細かい紙土と和紙の繊維を混ぜたものを貼り付け、最後にツタチ（粗真土）を付ける。
- ・鑄込み用の湯口などを取り付けて、更にその上を紙土やツタチで覆う。

### (3) 【鑄込み】

- ・炉に火をつけ、鑄型を入れてロウを溶かし、同時に心棒の縄を焼く。
- ・どろどろに溶けた湯（青銅）を湯口から注ぎ、鑄込む。

### (4) 【仕上げ】

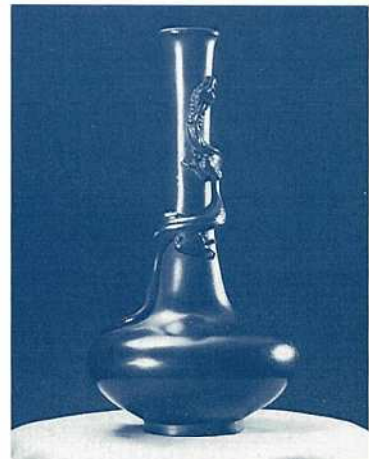
- ・バリや、コウガイなどを削り取り、ヤスリで磨いた後、ほうずみ朴炭などで磨きをかける。
- ・糠味噌やお歯黒を丹念に塗り、落ちついた色合いに仕上げる。



(炉)



(仕上げ)



(完成品)

この記録〈ビデオテープ〉は荒川区教育委員会社会教育課及び、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16mm映画〉は社会教育課及び、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸出期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16mm映画〉の貸出には団体登録と16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

### 〈問い合わせ先〉

荒川区教育委員会社会教育課・・・3802-3111（内線3358）

荒川図書館・・・3891-4349

町屋図書館・・・3892-9821

尾久図書館・・・3800-5821

日暮里図書館・・・3803-1645

南千住図書館・・・3807-7114